

組織目標評価報告書（令和2年度）

2

部局名:

歯学部

部局長名:

長塚 仁

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1) 入試倍率3.0倍以上を目指す。</p> <p>2) 歯学部教育点検・評価・改善専門委員会が主体となってカリキュラムの点検・評価を行い、教務委員会を核として、学生の意見を踏まえた歯学部教育改革を進め、カリキュラムの改善を推進する。</p> <p>3) 教務委員会を主体として、教職員のレベルアップを目指すFDを実施する。</p> <p>4) 教務委員会、特にカリキュラム検討部会を主体として、歯学部棟改修時における教育効果維持のためのカリキュラムの検討を進める。</p> <p>5) グローバル化を進めるために海外大学等との学生交流を推進する。</p> <p>6) リサーチマインドの涵養を図るため、研究室配属等を充実させる。</p> <p>7) ICT教育の更なる充実を図り、その方略や評価方法の向上を目指す。</p> <p>8) 歯科医師国家試験の高い合格率の維持に務める。歯科研修医のマッチ率の向上を図り、定員数の見直しに着手する。</p>	<p>関連する年度計画の番号</p> <p>1① 2② 5① 6② 14① 16② 17① 25② 50① 52② 59①【59-2】 60②【60-1】</p>	<p>1) 推薦試験の入試倍率は2.5倍で昨年の1.4倍から大きく志願者が増加した。本年度は推薦試験を12月に実施するなどの改革を行ったためと思われる。今後さらに推薦試験の改革を進める予定である。また、前期2.2倍、後期13.7倍、合計では4.1倍であり、目標の3.0倍を越えている。国際バカロレア選抜において出願者が2名あり、入学者が1名決定した。バカロレア選抜での歯学部への入学者は合計2名となった。</p> <p>2) 2016年から歯学部教育点検・評価・改善専門委員会を開催し、2019年からは学生も参加している。本委員会において、AP・CP・DPの点検が行われた。CPIに関して、「医療倫理」「医療安全」「感染対策」の追加やカリキュラム・マップの修正など検討することとなった。各学年の代表者から、新型コロナ感染症時における授業に関する質問や要望が出され、今後、改善に向けて周知・徹底することになった。また、キャリアパスに関する学生からの質問や要望が出されたことから、キャリアパスの説明会を複数回開催した。</p> <p>3) 「医学部・歯学部合同ワークショップ～オンライン授業がもっと楽しくなる3つのコツと落とし穴～」、「死生学・認知症講義～終末期の歯科医療～」、「在宅・訪問歯科診療教育シンポジウム～地域が求める在宅・訪問歯科診療～」の3回のFDをオンラインで実施した。</p> <p>4) 臨床実習においては、患者との対面実習機会の減少を補完すべく、Moodleのオンラインコンテンツを大幅に拡充した。また、医療情報端末の利用環境を整備し、教材と資料のデジタル化を推進することで、学習成果の把握・可視化が容易となり、効率的な評価が可能となった。今年度は、新型コロナ感染症対応で促進されたオンライン授業を積極的に活用しており、対面授業に加えて、これらオンライン授業も効果的に利用して、歯学部改修時においても教育効果を維持している。</p> <p>5) 新型コロナ感染症のため、ODAPUSプログラムは学生の安全面に配慮し中止とした。そのため、オンラインを用いた海外大学との交流を検討した。本年度は、海外協定校へのODAPUSプログラムの周知を図るため、歯学部およびODAPUSプログラムの紹介ビデオを作成し、海外大学へ配信することとした。</p> <p>6) 自由研究演習では、全ての学生がリサーチマインドを学ぶ機会を得た。配属された学生の中には、配属終了後も引き続き研究を行っている学生もあり、英語での総説を発表している。</p> <p>7) Microsoft Streamを用いたオンデマンド授業やTeamsやZoomを用いたリアルタイムオンライン授業が実施され、Moodle上での小テスト、レポート提出もスムーズに行える体制を確立し、学習成果のフィードバックもオンライン上で実施した。</p> <p>8) 2020年度の国家試験合格率は87%であり、全体で60%台の合格率のなか、教育成果があがっている(国立3位)。改修時における国家試験勉強部屋確保が課題である。岡山大学病院歯科医師臨床研修において、マッチ率は100%を達成した。研修医の定員についても大幅な見直しを図り、65名から53名に変更した。</p>
②研究領域		研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>大学院医歯薬学総合研究科 歯学系に統合</p>	<p>関連する年度計画の番号</p>	
③社会貢献(診療を含む)領域		社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1) 地域に対する社会貢献の実施体制を発展させ、歯科医師会、同窓会、行政等との連携を拡大・強化する。</p> <p>2) グローバル化に対応するために協定締結を推進し、国際交流の推進を図ることで活性化に務める。</p> <p>3) 学生の国際交流プログラムの主体となる(ODAPUS)を学生の安全に十分配慮しながら拡充する。</p>	<p>関連する年度計画の番号</p> <p>49② 50① 51① 52② 53③ 54④</p>	<p>1) 地域の歯科医師会ならびに大学同窓会との連携により、歯科医療従事者を対象とした有料のリカレント教育を開始しており、今年度は40名が受講した。歯学部同窓会と連携して「岡山歯学会オンライン討論会」を実施し、同窓会と歯学部の連携を図った。さらに、同窓会の協力を得て、大学の寄付金として学生教育や歯学部棟改修に伴う教育機器の補填を目的として新たに岡山歯学部同窓会基金を設立した。地域歯科医師会と歯学部は、専門医過疎地域における医療の均てん化を図ることを目的とし、訪問歯科診療時の高難度症例に適切に対応するための協定を締結した。岡山県、岡山市、および美作保健所管内市町村の保健担当者と連携して、歯科保健事業の企画・実施・評価を行った。岡山市歯科医師会と協力し、市内の小・中・高等学校生徒を対象に歯科健康診断を行うとともに、口腔衛生教育に参画した。厚生労働省の委託を受けた「予防健康づくり・実証事業」「歯科健康診査推進事業」において、事業実施の具体的な方法について検討した。</p> <p>2) 国際交流協定新規4件を締結、更新を2件実施した。本年度更新のプリティッシュコロンビア大学(カナダ)およびオハイオ州立大学(アメリカ)はODAPUSの重点校である。オハイオ州立大学には本学歯学部出身の准教授が在籍しており、積極的な学生受け入れをいただいている。</p> <p>3) ODAPUSプログラムは、新型コロナ感染症のため学生の安全面に配慮し中止とした。学生からの実施への要望が高いため、コロナ終息後の実施体制やオンラインを用いた実施の可能性を検討している。日本学生支援機構海外留学支援制度学生交流推進タイプに採択されており、プログラムの安全面が確保され次第、再開することとしている。受け入れについても本年度は中止としたが、ODAPUSプログラムの紹介ビデオの作製を通じて、新型コロナ感染症終息後の体制作りを図っている。</p>
④管理運営領域		管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>上記①②③の達成に向けて部局運営体制を強化・活性化する。</p> <p>1) 教員配置の最適化を進めることで、部局組織の効率化および活性化を図る。</p> <p>2) 歯学部棟改修に際し、社会や国際連携を推進することが可能な歯学部教育を行える改修を進める。さらに、学生教育や研究活動に支障のないように代替スペースについて配慮を行いながら計画を進める。</p> <p>3) 危機管理への対応を図り、コンプライアンス講習会への参加を徹底する。</p> <p>4) 女性教員を積極的に採用・昇進させるとともに、国内外の将来性の高い多様な人材の確保に努める。</p> <p>5) 管理運営業務の効率化に務め、メール会議やオンライン会議等の利用を進める。</p>	<p>関連する年度計画の番号</p> <p>13①【13-1】 16② 41② 55①【55-1】 【55-2】 68②【68-1】 69③【69-1】 70④【70-1】 72⑥ 87② 88③ 89① 90② 93②【93-1】</p>	<p>1) 歯科系診療科は、2021年3月1日より、12診療科を4診療科に改編し、患者の皆様からわかりやすい標榜科名にした。さらに専門性がわかるように、日本歯科専門医機構による専門性に準拠した部門を設置し、教員配置の最適化を含め、歯科系診療体制の効率化および活性化にむけた取り組みを積極的に行った。また、優秀な人材を登用する目的で、病院籍助教は公募による選考を行うよう規約を改定した。</p> <p>2) 学長および病院長のご理解のもと、歯学部棟改修について文部科学省から2期工事の予定のうち、1期工事が認められた。病院部分に関しては大学病院の歯科としての役割と地域からのニーズを鑑み、その内容と規模に関して病院と相談しながら計画し、移転時における教育スペース、診療スペースについても医学部および病院の多大なご協力をいただきながら仮移転が完了した。4階から10階までの学部部分に関しては、共用スペースを多くとり、10階には学外からも使用できる共同スペースも設置する予定である。次年度は2期工事にかかる概算要求を行うこととしており、その準備を進めている。</p> <p>3) コンプライアンス講習会に関してはコンプライアンス意識啓発研修による公的研究費等の不正使用防止に係るコンプライアンス教育、日本学術振興会のe-learning、情報セキュリティ等に関する講習受講を徹底させるべく取り組んだ。</p> <p>4) 女性教員に関しては、今年度は研究科籍で助教採用4、病院籍で講師昇任1、助教1の採用があり、現在、教授1、准教授2、講師3となり、女性教員の採用を進めている。外国人に関しては助教に男性1、女性1在籍している。また、外国人教員の1名は本年度研究准教授の称号を得て、さらに活躍している。人事異動を活性化することにより、将来性のある若手人材の発掘・確保に努め、ダイバーシティを推進している。</p> <p>5) 業務の効率化や新型コロナウイルス感染症への対策を図るため、教授会をはじめとする主要な会議等はオンラインやメールでの実施とした。また、時間についても可能な限り短時間での会議となるよう努めた。</p>